



皆さんの情報をお寄せください
38-3111(内線53)

春の全国交通安全運動 4月6日(土)～15日(月)

〈スローガン〉
やさしさと
ゆとりの運転
防ぐ事故

〔運動の重点〕

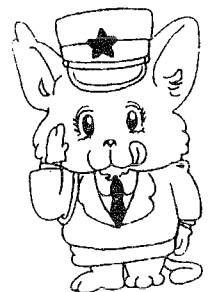
1. 子供の交通事故防止
2. 高齢者の交通事故防止
3. シートベルトの着用の徹底

まず相談 新潟県交通事故相談所

交通事故に伴う問題で困っている方に、無料で相談に応じます。

相談所は上・日曜、休日を除く毎日9時から15時まで、県庁・長岡総合庁舎・上越総合庁舎の3ヶ所で行っています。

また、毎月第2金曜日・10時から14時まで、移動相談所を新津市で開催していますので、気軽にご利用下さい。



新潟県交通安全マスコット「交通ルルちゃん」

毎月10日は
交通安全家庭の日
〈4月の標語〉
横断は止まって
よく見て確かめて

切り花をできるだけ長く、新鮮な状態で長持ちさせるテクニックを紹介しましょう。こうした技術を「水揚げ」といい、切り花の種類によって異なりますが、一般的な方法を三例挙げてみました。

まず、「水切り」です。ほとんどの切り花に使われている方法です。深めの容器に新鮮な水を入れ、水の中で茎の根元から二～三センチのところを、はさみで切り落とします。枝ものは斜めに、切り花は刃先を使って真つすぐに切ります。水のなかにけると空気が切り口から入ら

ず、すぐに水を吸い込みます。茎の柔らかい草花は、はさみで切ると切り口がつぶれる場合があるので、ナイフで切る方法もあります。

暮らしのワンポイント

生け花を長持ちさせる「水揚げ」をしっかりと

茎の切り口を濡れ新聞紙に包み、ガスなどの火で根元が黒くなるまで焼きます。変色したら、すぐに二時間近く水に入れておきます。炭化させ雑菌を殺すとともに、茎が腐りにくくなって水

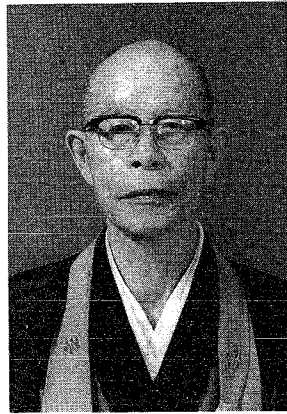
揚げがよくなります。

三番目は、「熱湯処理」です。茎の柔らかい春の花などに適しています。茎の根元から二～三センチのところを切って、根元をそろえて束にし、切り口を紙

に包みます。お湯が沸いてから、紙に包んだまま茎元を一～二分間煮沸します。変色してきたら、直ちに茎を水の中に入れます。この作業で、雑菌が入らないようにしたり、微生物を殺したり



高齢者叙勲 勲五等瑞宝章受賞 間野良知氏



小須戸町新保の間野良知氏(八十八歳)が、このたび高齢者叙勲を授けられ勲五等瑞宝章を受賞されました。

間野良知氏は、大正十五年より昭和四十一年までの四十年間にわたって教職にたずさわられ、岩船郡神林村神納東小学校校長を最後に退職されました。

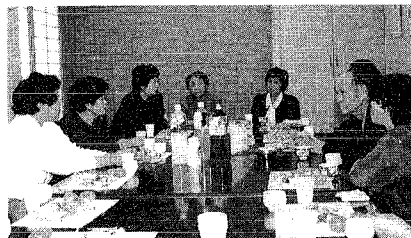
退職後も、小須戸町監査委員、中央公民館長、社会教育委員会議事委員長、文化協会会長等、数々の町の要職を歴任され、その間、社会教育功勞者として、町及び県並びに全国表彰を受けられるなど、小須戸町の発展のために大きく貢献されました。

～幼児期の食事についての講習会が開かれました～



2月22日・23日の両日、ふれあい会館と中央公民館で幼児期の食事についての講習会が開かれました。よい食習慣は子供時代に作られます。そしてそれは子供達への何よりのプレゼントです。参加者の皆さんは保健婦から幼児期の食事の大切さについて話を聞いた後、食生活改善推進委員のアドバイスを受けながら、楽しく調理実習をしました。

“介護の合間に ホッと一息つきました”



3月1日、温泉健康センターで、新津保健所と保健福祉課共催の「お年寄りの介護者のつどい」が開催されました。

18名の方が参加され、お互いに介護の苦勞をねぎらったり、保健婦や介護支援センター指導員に介護の相談をしたりして、有意義に過ごされました。



―菜種梅雨―

菜の花の咲く三月下旬から四月にかけて、降り続く雨を菜種梅雨といいますが。菜種といっても、油をとるためのアブラナの種が実る季節のことではなく、アブラナの花、すなわち菜の花が咲く季節の雨のことです。

これは、もとは漁師たちの言葉で、三～四月に吹く南東の風を菜種梅雨と呼んだともいわれています。

菜種梅雨子の大足が家歩む
宮本由太加

菜種梅雨のために外で遊ぶことができない子どもが、家の中を歩き回っているくらいだたしきでしょうか。また、雨で外に出られず、家の中を歩き回っている子どもの足を何気なく見た俳人が、その成長と春の息吹を合わせ合わせて詠んだ句でしょうか。

菜種梅雨の後には、タケノ

コ梅雨、卯の花腐し、走り梅雨、そして本番の梅雨、そのあとに戻り梅雨。日本人は、雨にもいろいろな風情を感じていたのですね。

それにしても、最近では菜の花が咲き乱れている風景を見ることが少なくなりました。以前、日本では菜種油をとるために、菜の花を栽培していました。いまも食用などに使われていますが、その原料の大半がカナダからの輸入になり、油をとるための菜種の栽培はなくなりました。しかし、最近では地域おこしのイベント用に栽培したり、春の花材として愛用されたりしています。

四月二十九日は「みどりの日」、二十三日二十九日は「みどりの週間」です。この期間は、緑に関する行事が各地で行われます。積極的に緑と親しんでみませんか。

